

令和5年度第2回埼玉県地域保健医療計画推進協議会議事概要

1 日 時 令和5年8月30日（水） 17時30分～19時00分

2 場 所 埼玉会館 2階ラウンジ（Web会議と併用）

3 出席者

【委員】

伊藤誠一委員、上木雄二委員、奥山秀委員、勝村直久委員、久保彰子委員、佐々木賢治委員、佐藤啓子委員、高橋茂雄委員、中村勝文委員、畑中典子委員、林文明委員、原澤茂委員、樋口京子委員、廣澤信作委員、別所正美委員、増尾猛委員、宮崎香理委員、村田朝子委員

【特別委員】

岡明委員、直江康孝委員

【事務局】

表保健医療部長、本多保健医療部参事、横田健康政策局長、縄田医療政策局長、藤岡地域包括ケア局長、野澤食品衛生安全局長、関係各課長及び担当者

4 議 事

(1) 埼玉県地域保健医療計画（第8次）について

- ・ 第8次計画の骨子案について
- ・ 第8次計画の指標案について

(2) 地域医療介護総合確保基金（医療分）について

5 議事内容

(1) 埼玉県地域保健医療計画（第8次）について

資料1・資料2・資料3-1～資料3-4に基づき事務局から第8次計画の骨子案及び指標案について説明を行い、了承された。

【主な質疑】

- ・ 委員から、医療費適正化の推進に当たり、多剤重複投与に係る取組について、指標を設定して取組ができないかと質問があり、医師の判断で処方されているところもあるため、具体的な指標として設定することは難しい部分がある旨事務局から説明した。
- ・ 委員から、食塩の摂取量を指標にした理由は何かと質問があり、日本は他国と比べて食塩摂取量が多いことなど国が目標値を定めた背景と、

国の研究によると、死亡要因のうち食事に関するもので、食塩の過剰摂取が一番高かったことから指標を定めることにした旨事務局から説明を行った。更に、委員からは、県民が実感を持って食塩摂取量を把握する取組はできないか、と提言があり、今後検討を進めていく旨事務局から回答した。

・ 委員から、指標の達成基準時点の設定について、計画期間の最終年度である令和11年度までに統一できないかと質問があり、事務局から、上位計画である「埼玉県5か年計画」の最終年度である令和8年度までとしたものや、組み込みを行う計画においてはそれぞれの協議会や部会の検討内容を基に設定とした旨を説明した。

(2) 地域医療介護総合確保基金（医療分）について

資料4に基づき事務局から説明を行い、了承された。

【主な質疑】

なし

【出席委員の所属団体・役職等】

	伊藤 誠一	委員	一般社団法人埼玉県食品衛生協会 検査センター所長
	上木 雄二	委員	社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会 副会長
	奥山 秀	委員	埼玉県国民健康保険団体連合会 常務理事
	勝村 直久	委員	公益財団法人埼玉県健康づくり事業団 専務理事
	久保 彰子	委員	女子栄養大学 准教授
	佐々木 賢治	委員	一般社団法人埼玉県介護支援専門員協会 理事
	佐藤 啓子	委員	公益社団法人埼玉県看護協会 専務理事
	高橋 茂雄	委員	一般社団法人埼玉県医師会母子保健委員会 委員長
	中村 勝文	委員	一般社団法人埼玉県歯科医師会 副会長
	南本 浩之	委員	公益社団法人埼玉県理学療法士会 会長
	畑中 典子	委員	一般社団法人埼玉県薬剤師会 副会長
	林 文明	委員	一般社団法人埼玉県精神科病院協会 会長
	原澤 茂	委員	埼玉県病院団体協議会代表者会議 役員
	樋口 京子	委員	埼玉県食生活改善推進員団体連絡協議会 副会長
◎	廣澤 信作	委員	一般社団法人埼玉県医師会 副会長
○	別所 正美	委員	学校法人埼玉医科大学 学長
	増尾 猛	委員	健康保険組合連合会埼玉連合会 事務局長
	宮崎 香理	委員	公益社団法人埼玉県介護老人保健施設協会 理事
	村田 朝子	委員	恩賜財団母子愛育会埼玉県支部 支部長
	岡 明	特別 委員	埼玉県立小児医療センター 病院長 (埼玉県地域保健医療計画推進協議会 小児医療部会長)
	村田 朝子	特別 委員	川口市民医療センター 副病院長・救急救命センター長 (埼玉県地域保健医療計画推進協議会 災害時医療部会長)

(氏名五十音順 ◎：協議会会長、○協議会副会長)